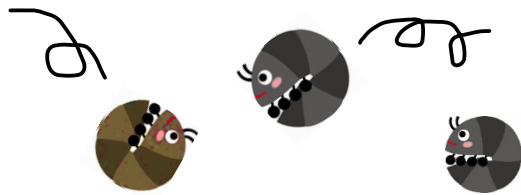


蒲幼稚園 No.5 R3,7,16

夏がやってきました!

お宮から威勢のよいセミの声が聞こえてきます。それに負けない子どもたちの元気な声。朝から水着に着替えて飛び出してくる子どもたちは、毎日楽しい遊びを展開していました。水遊び、砂遊び、泥遊び、秘密基地作り、ザリガニ釣りもまだ続いているんですよ。友だちと一緒に遊ぶことが楽しくなってきた、大勢でダイナミックな遊びを繰り広げていますが…。今回は、その周りで静かに展開されている生き物探しに注目してみました。

砂場にできた大きなすべり台。この山に登るのは、もちろん自力！誰も手伝わず、また誰も文句を言わないで順番を待ちました。



たかがダンゴムシ されどダンゴムシ



子どもに大人気のダンゴムシ。4月からどれだけたくさんのダンゴムシを見つけたことでしょうか？賑やかな園庭中心部ではなく、隅の方でしゃがみ込んでいる子どもたちもちゃんと楽しみを見つけました。そして、たくさんの学びがありました。身近すぎて「な～んだ、ダンゴムシ」と思われるかもしれませんが、ここに書ききれないほどたくさんの得るものがあったと感じています。

保育者を頼って

「他者に頼る」ということもとても大事な力だなと感じています。実際「ダンゴムシ探しを手伝って」と言ってきた子どもたちは、今や保育者の元を離れて、自分で捕獲できるようになったばかりか、自分のやりたい遊びに加わっていますから。新学期の不安、どうしていいかわからない不安、何をしようか迷っている不安、様々な不安を抱えていた子どもたちは、保育者と一緒にダンゴムシ探しをすることで、安心感が得られたのだなと感じました。成長するには何よりもこれが大事！と子どもたちとダンゴムシに教えられました。焦らない、焦らない…。

驚きの集中力

葉っぱをどかした直後には、ダンゴムシは見つかりません。びっくりしたのか、見つからないように身を潜めているのか、しばらくの間丸くなって動かないでいるからです。でも、ここで諦めてはダメ！ダンゴムシとの根競べが始まります。じっと地面を見つめたまま、動き出したダンゴムシを捕まえるのです。「待つ」ことをこんなところでも経験していました。

愛おしく思う気持ち

自分で見つけたダンゴムシには、愛着が湧くものです。ずっと一緒にいたいな～とダンゴムシとの別れを惜しむ姿が見られました。でもね、ダンゴムシにも家族や友だちがいるんだよ。それにダンゴムシは大事な大事なお仕事をしているんだ。だからそっと帰してあげようね。自分で見つけたからこそその葛藤が、そこにあると感じました。

力を加減して

小さなダンゴムシを捕まえるのは結構大変！指先に神経を集中させて、潰してしまわないようにそっとつまみ上げる。近頃は、ダンゴムシの産卵シーズンで、驚くほど小さなダンゴムシが歩き回っています。つまみ上げたいけれど、つまめないほど小さなダンゴムシ。木の枝に登らせたり、葉っぱですくったりして、手に乗せる方法を考えていました。こんなところでも、指先を器用に使う力を培っていました。

様々な表現

ダンゴムシを探していると小さな生き物たちに出会います。ハサミムシ、ヤスデ、カメムシ、カタツムリ、チョウの幼虫、シャクトリムシ、ミミズ、名前が分からない生き物にもたくさん出会いました。生き物を見つけると、動きを言葉や体で表現してみたり、集めて家族をイメージしてみたり…。思わず表現したくなる動きを見せてくれる生き物たちの面白さに感動します。

「この虫は、カサカサカサカサ～って早く歩けるね」
(手足を素早く動かしながら)
「うわ～ボコンってウンチした！」
(目を最大限に見開いて)
「ニョニョニョ～って目が出てきたよ」
(体を左右に揺らしながら)
「チョウはね、魔法使いなんだよ。」
だって変身できるんだもん」(とても納得したように)

少ない人数での会話

ダンゴムシを探しながら会話をしている時間は、とても穏やかに、そして心地よく流れました。「ちいさいね」「かわいいね」「これはお母さんかな」「あっ落ちた」などと見つけたダンゴムシを手にとり、チョコチョコと歩き回る様子を観察しながら、たくさん会話をしました。自分に向けて声をかけられていることや自分の声が相手に届いたことを実感する、こんなやりとりこそが心を落ち着かせ、豊かな心を育てていくんだなあと感じました。



私、知ってる!

いつの間にかダンゴムシを捕まえられること、たくさんいるところを知っていることなどが自信になって、子どもたちを大きく成長させていることに気が付きました。それぞれに見られたこの自信が、遊びのいろいろな場面で見られるといいなと思っています。そして、私たちはそれをキャッチする目を育てていきたいなと思っています。